



[ものづくり・商い・もてなし]
西陣織の生産と今宮祭

景 022 (H19) 歴 048 (H25)

表蔵の形式をもつ町家が多く並ぶ笹屋町通に面し、黒漆喰壁の表屋と白漆喰壁の衣裳蔵の対比の外観が印象的な梶田家は、織物の町、西陣地区で帯の製造卸業を営む出機（でばた）でした。

通りに面して表屋と衣裳蔵が並び、主屋の座敷庭を挟んで、雑物蔵が接続する表屋造りです。明治11年頃の建造と伝わる、表屋と主屋は、瓦葺き切妻平入りの厨子2階建てで、表屋1階の出格子やバッテリー床几、2階の虫籠窓、主屋玄関庭の無双によるのぞき窓などが、いずれも良好な状態で維持されており、通りの景観を形成しています。

主屋には、四畳半の茶室が設けられ、アカマツの床柱、入り節の床材が用いられています。1階の座敷は、違い棚や付け書院で構成されており、2階の座敷は、アカマツの床柱、コクタンの床、ケヤキの床板を用いた平書院で、建具や階段の天井には黒部杉の網代が用いられています。玄関庭、中庭、座敷庭があり、いずれも手入れが行き届いています。

衣裳蔵は、見世からの動線が短く、主屋の中庭側に出入口が設けられ、入口の観音扉の塗り戸には、あり差しで組まれた木枠が取り付けられています。衣裳蔵は家業用の蔵として、雑物蔵は住居用の蔵として使用されていました。



奥座敷



衣裳蔵（塗り戸）



〒602-8453 京都市上京区笹屋町通千本西入笹屋4-285
※個人宅のため、通常非公開です。